

4段階評価	4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する
-------	---

学校経営 ビジョン	○ 「凡事徹底」を基盤とした指導による「仲間と共に知恵をしぼり、思いやりの心をもって、最後までやりぬく児童」の育成
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p>重点目標 ○ 「学びたい」意欲をもって、主体的かつ積極的に学習し、着実に学力を身に付けていく児童の育成</p> <p>手段 1 授業の充実・改善・・・規律と活気があり「わかる・できる」授業 2 家庭学習の徹底 3 読書の推進「読み聞かせ」、図書館協力員との連携 等) 4 新聞の活用 5 ICTの有効な日常活用 6 特別支援教育を意識した学習指導の充実 7 キャリア教育の充実</p>	<p>1について ○ 1人2回の相互授業参観が教員の授業力向上、児童の学力向上に繋がったと考える。今後も継続して行っていく。 ○ タブレットPCを活用した説明、発表により、「アウトプット」する活動の充実が図られた。</p> <p>2について ○ ICTを活用することにより、「指導の個別化」や、オンラインによる学習指導等、個に応じた支援を行うことができた。</p> <p>3について ○ 12月末現在、児童1人あたりの貸出冊数は72.8冊である。3月までの目標冊数は目標である80冊を超えると予想される。</p> <p>4について ○ 子ども新聞を活用した積極的な取組ができた。本年度は新聞の内容を基にしたクイズを実施することで、より効果的な活用ができた。児童の新聞投稿については、更に充実させていきたい。</p> <p>5について ○ タブレットPCの活用については、教員、児童共にスキルが高まっている。タブレットPCの効果的な活用ができた。</p> <p>6・7について ○ 本年度もコロナ禍により外部からの来校者が制限されることが多かったが、可能な範囲で外部講師を招聘して、児童の望ましい職業観を育てることができた。</p>	2.8	3.1	<p>○ 授業の様子を参観させていただいて大変うれしかったです。孫の様子も見られたのでよかったです。私たちの頃とすると授業の内容も難しくなっているようにも思います。分からないときに友達や先生に尋ねて、分かるまで頑張ってください。</p> <p>○ 家庭でも学校の様子等、親や身近にいる人たちが聞いてあげたり、励ましの言葉をかけてあげたりするとよいのではないかと思います。</p> <p>○ 新聞活用の取り組み、新聞に投稿された校長の心温まる記事や、掲載された児童の作文等に変な感激しました。</p> <p>○ タブレットを持ち帰って授業に参加したり、授業で活用されたりしているのを見て、タブレットの活用が進んでいるのを感じました。私たちが経験してきた授業とは変わったところもありますが、新聞を活用したり、投稿したり、今までのよいところも取り入れていただいていると思います。</p> <p>○ 1人2回の相互参観授業と、目標が明確に設定されており、大変すばらしいと思う。今後も継続していただきたい。</p> <p>○ 毎日の学習の習慣化を学校と家庭が連携できると基礎が身に付くのではないかと。</p> <p>○ コロナに対する制限が今後緩和されると思うので、6・7に対して積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 相互参観で先生方も学ぶ意識を高めていってほしいのが素晴らしいと思いました。オンラインでの学習指導等、それぞれの児童に応じた内容は支援していただいているとのことですが、学年によっては家庭学習についての指導があまりなく、個人差があるのではないかと感じました。</p> <p>○ 読書量は大変素晴らしいと思います。</p> <p>○ 子ども新聞は内容がよい記事が沢山あるので、どんどん活用していただきたいです。</p> <p>○ コロナ禍であっても、何ができるのかを常に考えることを大切にいただいているように感じます。</p>
徳育	<p>重点目標 ○ 自他のいのちやきまり、礼儀を尊重し、日々実践する児童の育成</p> <p>手段 1 気持ちのこもったあいさつ、返事、会釈の徹底 2 児童の実態に基づいた道徳教育・人権教育の充実 3 いじめ・不登校に関する指導の充実 4 清掃指導の徹底（一所懸命、無言清掃 等) 5 きまりの徹底（「栗須小学校のきまり」 等) 6 安全指導の徹底（交通、生活、登下校、遊び 等) 7 「ZOOM」等を活用した集会等の実施</p>	<p>1について ○ あいさつについては「〇〇さん、おはよう」といったように「おはよう」の前に名前を付けることで、心のこもった暖かい交流が生まれた。</p> <p>2について ○ QUテストの実施と分析により児童理解を深め、学級経営に役立てることができた。</p> <p>3について ○ いじめについては認知解消率100%を継続することができた。不登校については、多様性を認めながら、本人や保護者との連絡を密に取り合っている。</p> <p>4・5について ○ 本年度は積極的な生徒指導の実施により、児童自ら清掃やきまりの意味について考える指導を行ってきた。</p> <p>6について ○ 児童の命と人権を最優先とした学校運営を行ってきたが、今後、児童自らがの交通安全や学校内での安全に対する意識を高めていく必要がある。</p> <p>7について ○ コロナの感染状況が悪化し、集合しての集会等の実施が難しい場合に、オンラインでの集会を行った。学校と家庭を繋いで健康観察等にも利用が広がった。</p>	3.1	3.3	<p>○ 朝の立ち番でのあいさつ。とても元気をもらう時間でした。あいさつが、大きな声で返ってくるので最高な時間でした。中学でもきつとす全てのことにがんばれると思います。低学年の子からはたくさんのタッチをもらいました。</p> <p>○ 立ち番のときに交通量の多さにびっくりしています。これからも事故のないように、安全に登校できるようにお祈りしています。</p> <p>○ いじめのない、思いやりのある栗須小学校でありますように!</p> <p>○ あいさつは人間関係を構築するため、また良好に保つための基本となるものと子供たちに言い聞かせています。誰にでも気持ちのよいあいさつができるように、普段からの取り組みが大切だと思います。「おはよう」の前に名前を付けること、家やその他の場面でも実践してみようと思います。</p> <p>○ 3・5・6について、学校で一生懸命に取り組んでいただいていると思います。学校の先生、大人がいない場面でも守れる、きちんとできることが理想だと思います。子供たちなのでなかなか難しいと思いますが、本人たちへの意識付け、家庭との連携も必要だと思います。</p> <p>○ あいさつについて、児童が進んでできるように身近な大人が手本を示すことが大事。清掃活動やきまりを守ることも同様で、思いやりをもって行動しなければなりません。</p> <p>○ 毎朝、かわいい児童が登校時に、徐々にあいさつをしてもらえるようになりました。妻と二人でにっこりと見送りしています。</p> <p>○ ガソリンスタンド前を横断する児童を見ていると、なかなか車が止まってくれずに心配です。どうか、一日も早い対策をお願いします。</p> <p>○ ゲームへの依存について心配しています。</p> <p>○ 「おはよう」の前に名前を付けてもらえるのはうれしいですね。子供たちもうれしかったことと思います。</p> <p>○ いじめ、不登校については学校だけでは解決できない問題だと思います。保護者も一緒に学ぶ機会があるといいなと思います。</p>

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等及び取組	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体育	重点目標 ○ 自分の身体の状態に関心を持ち、健康の保持増進や体力の向上に進んで取り組む児童の育成 手段 1 集団行動の基本様式の定着 2 体力・運動能力の向上 3 新型コロナウイルス感染、熱中症予防への対応 4 疾病治療の推進 5 立腰の徹底 6 肥満傾向児への個別指導の実施 7 保健室利用のガイドライン設定	1・2について ○ 運動会練習や各学年の体育授業の中で、集団行動の基本様式の定着を図ってきた。運動能力については、「持久力」や「ボール投げ」に課題が見られた。コロナ禍の影響もあると考えられる。 3について ○ 新型コロナについては全職員で共通理解の基に、できる限りの感染対策を行い、児童への指導を行ってきた。 4について ○ 歯科治療については1月現在71%である。年度末まで各家庭に対し、治療の勧めを行っていく。 5について ○ 立腰についての自己評価は約81%の児童が気を付けて生活することができたと答えているが、目標に届かず、十分ではない。 6について ○ 肥満傾向児童への個別指導については、関係機関との連携と養護教諭の指導により充実が図られた。 7について ○ 保健室を利用する児童については、時期的な差はあるものの、減少傾向が見られる。	2.9	3.3	○ コロナや熱中症対策を行いながらの体育の授業や運動会の練習は大変だったと思います。なかなか収まらないコロナですが、子供たちも手洗い、消毒が習慣化できているのではないかと思います。 ○ 保健室利用が減少したことはよい。 ○ 基礎体力を身に付けるため、運動も家庭と連携し、習慣化しなければならぬと思う。 ○ 運動会の時期をずらしたことで、ゆっくりと練習に取り組めたのではと思います。10月は涼しくて、熱中症の心配はなかったです。 ○ 歯科へは定期的に通うことができるように通信等で呼びかけてもいいと思います。むし歯はなくても3ヶ月おきぐらいに通うと安心です。
食育	重点目標 ○ 食に感心を持ち、望ましい食習慣を实践する児童の育成 手段 1 TTによる食に関する授業の推進 2 給食の時間の指導の充実 3 「弁当の日」の推進 4 米作りや交流給食等の食に関する体験活動の充実 5 個別の相談指導の充実 6 朝食指導の充実	1について ○ 本年度は3年ぶりに給食試食会を実施することができた。また、食育指導についてもチームティーチングによる指導の充実が図られた。 2について ○ 給食時間は、コロナ禍による黙食の時間が続いた。残食改善については、まだ十分ではない。 3について ○ 遠足等の延期や中止等により「弁当の日」の実施が限られた。「弁当の日」については今後、「食を考える日」として実施予定である。 4について ○ 本年度は5年生が種籾から米を育てる活動を行った。来年度以降も稲の成長や食の大切さを味わえるような活動を継続して、充実させていきたい。 6について ○ 朝食については、ほぼ100%の摂食率を維持することができている。	3.2	3.7	○ 「弁当の日」いいですね。ぜひ、お願いします。 ○ 1について、給食試食会に実際に参加して、味付けの加減や必要な量などを知るよい機会になりました。 ○ 4について、種籾からの育苗はよい取り組みだと思います。体験できる学年が増えてくれればよいなあと思います。 ○ 米作りを通して食に感謝することが学べたと思う。今年度は特に種まきから行ったことは今後も継続できるとよい。 ○ 授業参観の食育の授業は保護者にとっても食事内容の見直しにつながり、ありがたいです。 ○ 遠足の回数が少なくて残念でした。弁当の日は子供たちも自分で作ることを楽しんでいるので実施していただきたいです。 ○ 米作りは栗須小学校の自慢の取り組みだと思っています。種から苗を作っていることや販売、もちつき等を沢山のの人に知ってもらいたいです。
その他	○ 人材育成・働き方改革について 手段 1 全職員の授業力向上と、授業論文への積極的な取組 2 月45時間以上残業する職員「0」 3 ICTの活用・ペーパーレスによる会議の簡略化	1について ○ 1人年2回の授業公開を行い、授業力向上に努めた。また、市の授業論文、教育弘済会の論文応募を行った。 2について ○ 月45時間以上残業する職員の減少が見られた。また、教頭の働き方改革が推進された。 3について ○ ICT活用によるペーパーレス会議が定着してきている。	3.0	3.5	○ 先生方のお仕事、よく新聞やニュース等で拝見しています。教頭先生のお仕事もご苦労様です。少しでも早く先生方の働き方改革がなされますように願っています。 ○ 子供たちのためにいつも一生懸命に取り組んでいただいております。ありがとうございます。 ○ 職員の働き方改革のためにも、地域ボランティア等の活用を積極的に行えるとよい。 ○ 先生方あつての学校生活ですので、働き方改革に取り組んでいただきたいです。コロナが落ち着いてきたので学校ボランティアの方々のご協力がいただければありがたいです。

次年度の方向性についての校長所見	<p>次年度も学校経営ビジョンである「『凡事徹底』を基盤とした指導による『仲間と共に知恵をしばり、思いやりの心をもって、最後までやりぬく児童』の育成」を目指しながら、児童が「安心して登校、楽しく学校生活」を送ることができる学校づくりを行っていく。また、以下の3点については、特に具体的な取組を行う。</p> <p>① 「みかんやま地家学会議」・・・よりよい学校の在り方について、学校と地域、保護者との熟議を行う「みかんやま地家学会議」を新設する。</p> <p>② 教員の授業力向上と児童の学力向上・・・教員の相互参観を日常化し、一人一人の授業力向上を図ると共に、読解力向上プロジェクトにより、本校の課題となっている児童の読解力の向上を目指す。</p> <p>③ 人材育成・働き方改革・・・教職員の業務の平準化と協働体制の強化に務め、教員がワークライフバランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいをもって能力を発揮できる環境を整備する。</p>
------------------	--